

開港をひかえて

仕上げを急ぐ 新熊本空港

四月一日開港をめざす新熊本空港は、いま最後の仕上げを急いでいる。いよいよ熊本の空にもジャンボ時代にふさわしくジェット大型旅客機が飛ぶことになる。
待望の二千五百メートル滑走路とエプロンはほぼ完成し管制塔も計器類の取り付けも進み、テスト飛行もすでに行なわれた。空港ビル（三階）鉄筋ビルも建設され内装工事の仕上げも急ピッチで行なわれている。こうして新熊本空港はいよいよ完成に近づき、四月からは、熊本―大阪、熊本―東京間にジェット旅客機ボーイング727、熊本―名古屋間に737が飛ぶことになる。
なお、着陸時、飛行機の進入方向や高度をパイロットに指示する―LS（計器着陸装置）の取り付けもおそくともこの秋には完了する予定になっている。



▲滑走路の末端を示す目印灯のとりつけ作業。

▼空港ビル前の広場もきれいに整備されていく。



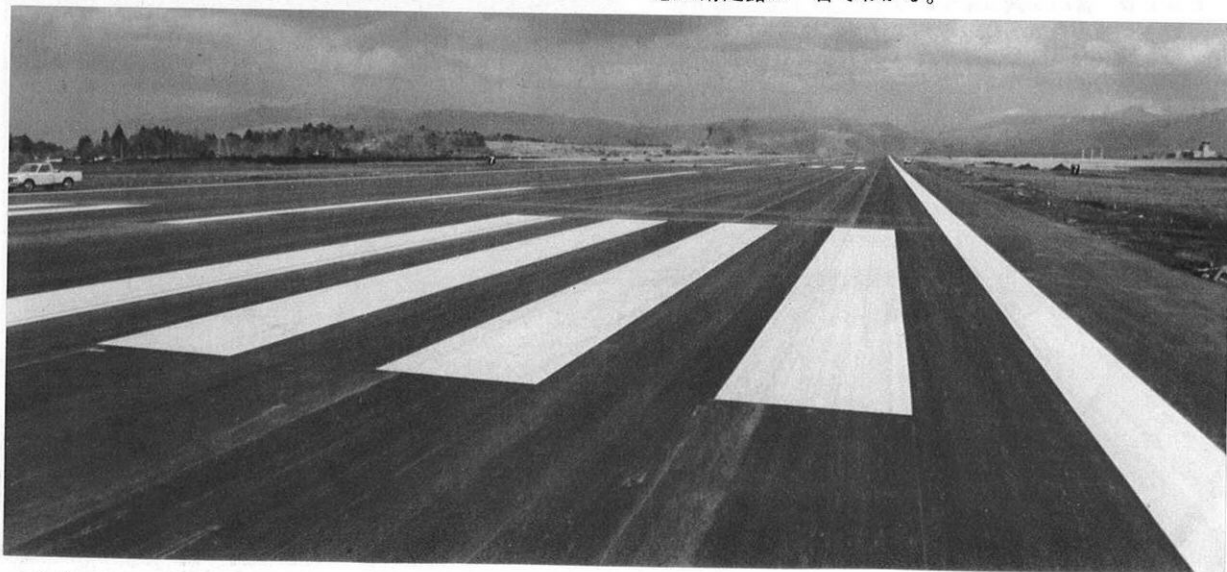
▲空港ビルも全容をあらわした。只今内装の仕上げが行なわれている。



▲エプロンに通じるフィンガーも形が整ってきた。



▲管制塔の上にある管制室は四面ガラス張り。空の状態や滑走路が一目でわかる。



▲東西に延びる 2,500メートルの滑走路。線引きも終わり、あとは一番機を待つばかりだ。